

# 上暮地地域

## 地域の概況と主要課題

地域の概況や主要な課題を地域の位置・人口・土地利用・交通体系・地域の特徴の5分野に分け、行政が分析しました。

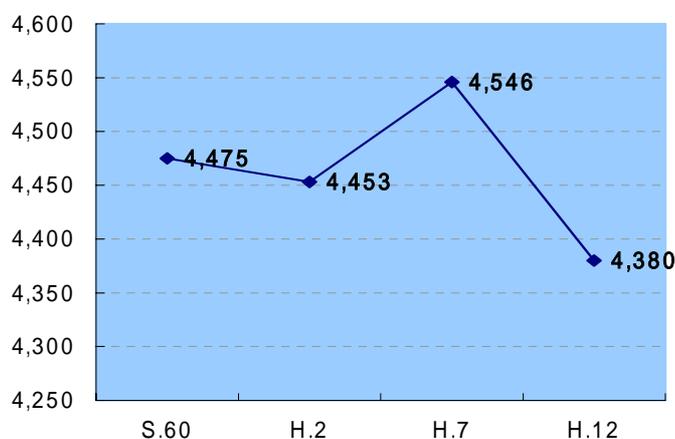
### 地域の位置

上暮地地域は本市の最北部に位置する地域であり、面積は667.5haとなっています。北部から北西部は金峰山などの山地を挟んで、東は国道139号を通じてそれぞれ西桂町と接しています。また、南東は明見地域と、南は国道139号を通じて下吉田地域と接しています。市街地は寿駅周辺及び国道139号沿道と北西側山地とで囲まれた傾斜地域を中心に位置しています。

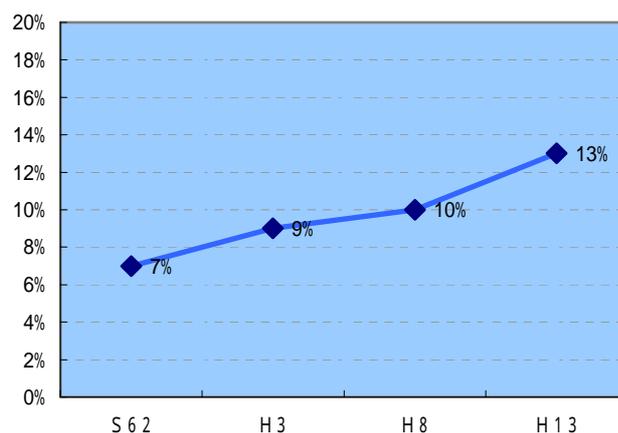
### 人口

平成12年現在、上暮地地域の人口は4,380人、全市人口に占める割合は8.1%と4地区の中では最も低い割合となっています。昭和60年～平成2年の間、人口は微減傾向にありましたが、平成2年以降若干上昇したものの、平成7年以降再び減少に転じています。しかしながら、人口に占める65歳以上人口を表す高齢化率は上昇が続いており、地域の高齢化が進んでいる現状です。

(人) 上暮地地域の人口推移

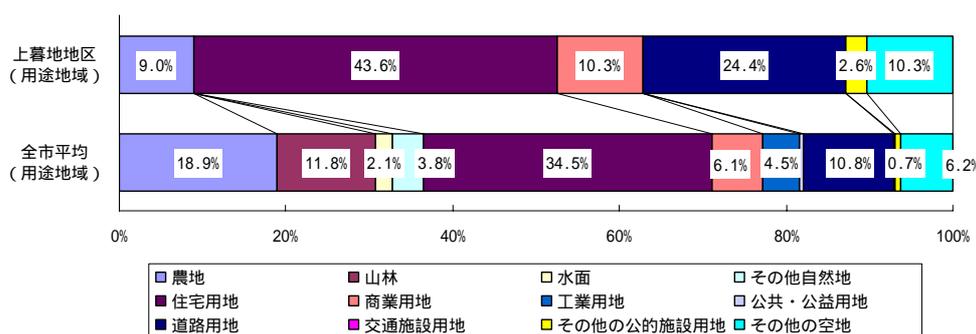


上暮地地域の高齢化率の推移



## 土地利用

本地域においては、北部から北西部に連なる山地が地域の大部分を占め、地域全面積の約1%にあたる7.8haが用途地域に指定されており、県営及び市営寿団地を中心に第一種中高層住居専用地域、それに隣接する寿駅周辺が第一種住居地域となっています。また、用途地域に指定されていない市街地を取り囲むかたちで数見地区、松久保地区、米倉地区と良好な農業生産環境を有しており、農用区域としての利用がされています。また、市街地は国道139号沿道、市道寿町本通り線（旧道）沿道、寿駅周辺に展開しています。さらに、桂川支流の谷に入り込む形でも宅地化が進められていることから、今後は寿駅周辺の地区生活拠点としての整備や地域に広がる市街地の整備、自然環境に配慮した土地利用等、計画的な整備を進めていくことが必要です。



## 交通体系

交通体系の面では首都圏・西桂・都留・大月方面と下吉田方面を国道139号・中央自動車道・富士急行線が結び、本市の首都圏方面からの玄関口を形成しています。しかしながら、地域周辺にはICがなく、国道139号に交通が集中するため、頻繁に交通渋滞が発生しています。また、富士急行線を挟んで北西部の地区（数見地区・松久保地区）への大型車両の進入路の確保も問題となっています。このため避難路や安全な通学路の確保の観点も含め国道139号の拡幅整備、補助的な幹線道路として国道東側への県道富士吉田西桂線、集落道として国道西側への中山間地域総合整備事業「富士吉田北部」による道路整備、地区周辺への中央自動車道の新規ICの整備構想とインターアクセス道路の整備が課題となっています。

また、本地域の公共交通については、富士急行線が北西側山地の裾野を通過しているものの、寿駅が南端にあるため北東側地域については駅までの利便性に乏しい状況となっています。また、地域内の公共交通も未発達なため、高齢者・学生などを中心に公共交通機関の充実が必要となっています。

## 地域の特徴

地域北西部は富士河口湖町に連なる一団の山地に占められ、この山地を源流域とする桂川の支流（杓子川、翁沢川、数見川）が流れており、豊かな水と緑に恵まれています。また、白糸の滝・三崖の滝・大藤や地域特有の地形を活かした美しい富士山の眺望点などもあり、これらの資源を保全しながらも広域交流への活用を図ることが課題となっています。また、本地域は特に急傾斜地域が多く、大雨時の農業・防火用水の冠水問題など、水防対策も課題となっています。

